

平成25年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1491600019	事業の開始年月日	平成21年4月1日
		指定年月日	平成21年4月1日
法人名	医療法人 聖和会		
事業所名	グループホーム さくら 愛川		
所在地	(〒 243-0307 ) 神奈川県愛甲郡愛川町半原340番地		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		工外数	2工外
自己評価作成日	平成25年10月1日	評価結果 市町村受理日	平成26年3月25日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

医療法人聖和会が設置主体となり、後藤整形外科を母体に施設運営を行っている。  
また、法人全体の社会資源を有効活用する事により、ご利用者様のADL向上に特化したグループホーム運営を行っている。

具体的には、音楽療法士、作業療法士の支援により職員相互の技術向上と御利用者様の安心・安全な生活基盤を整えることに主眼を置き、日々のサービス向上を全職員一丸となり努めている。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成25年9月19日	評価機関 評価決定日	平成26年3月1日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

#### 【事業所の概要】

当事業所を運営する「医療法人・聖和会」は、隣接する厚木市内に在る「後藤整形外科医院」が母体であり、同系列内で他に介護老人保険施設や居宅介護支援事業所を運営している。当事業所はそれら事業所と連携して、一体的に介護サービスを提供している。鉄筋コンクリート2階建ての1～2階にユニットを構え、それぞれに8名と10名のスタッフが配置されている。所在地周辺は中津川の西側で、国道412号線が通る山間地である。小田急本線・本厚木駅北側の1番乗り場から、神奈川中央交通の「厚01」系統バスで約40分、「清雲寺入口」バス停で下車、徒歩2分で行ける。畑が点在する住宅地である。

#### 【清潔な環境の整備と実践】

事業所内部の明るさと色合いが、初めて訪れる人にとって印象的に好感を与える仕様になっている。広さも十分で、整頓の行きとどいた空間は清潔感を強く感じさせる。部分的に見ていくと、リビングにある洗面台に手拭き用のタオル（使い捨ておしぼり）やハンドソープ類が準備されている。トイレには排泄後の清拭に用いる暖かなおしぼりタオルがあり、清潔の維持に配慮がされている。用具室には寝具であるリネンも大量にストックされており、これらのことから、清潔を重視した介護が実践されていることがうかがえる。

#### 【家庭的な雰囲気】

利用者が平穏な感情を維持して暮らしている様子が見られた。それは職員の言動からも感じ取れた。職員は手仕事をしながらも利用者とは談笑しているし、いつも利用者と同じ高さでお互いの目線を合わせている。デイサービスに来ている利用者も交えて話をしながら過ごせる、この様な家庭的な雰囲気づくりに自然体で臨んでいる。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム さくら
ユニット名	1Fフロア

アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中でその人らしく暮らし続ける事が出来るような理念を作成。職員が目につくようホーム入口に掲示し共有するよう努めている。	事業所開設時に法人理事長が提唱した6か条の基本理念が館内に掲示され、職員に周知して日常の業務へ反映すべき指針としている。特に新任職員には理念に沿った実践を求め、指導に努めている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム行事や自治会行事を利用し地域住民の方々との交流を深めている。又、ホーム内の菜園でとれた野菜をおすそ分けしている。毎朝ホーム前公道の清掃を実施中。	下細野町内会に事業所が加入している。地区内の神社の祭りや清掃行事、公民館での文化祭などに利用者も参加している。半原保育園に訪問し園児と、また、養護施設「てまり学園」の人たちとの交流も持たれている。ハーモニカやギターの演奏、愛川町介護者の会（福寿草の会）の方々による折り紙作りなどのボランティア活動も受けている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を利用し、グループホームでの入居者様の生活状況を説明している。今後は、キャラバンメイトを活用し、認知症の理解について取り組みたい。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者からの御意見、御提案については、職員間の会議にて報告。今後とも要望や改善点については迅速に対応できるよう心がける。	原則、3か月に一度の開催と定めている。地域包括支援センター職員、民生委員、家族代表、福寿草の会、地区長、町内会長に法人代表と系列の介護老人保健施設から副施設長、事業所管理者が委員となっている。議事録で行事や利用者状況、職員体制等の報告や防災訓練実施及び昨年度の外部評価結果の説明などが行われ、地域委員から助言や要望が随時に提言されている様子が確認できた。前回は7月24日に開催、次回は10月24日を予定している。	

5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話連絡が主ではあるが、月に1回程度は直接役場に伺い話し合う機会を持つことはできている。担当者からの助言もあり、更なるサービスの向上に取り組むよう努める。	愛川町高齢福祉課の担当職員及び地域包括支援センターと連携を保ち、事業所からの諸報告や行政からの助言・案内などのやり取りが行われ、日常の業務に反映する努力がされている。この地区では、グループホーム連絡協議会などは設定されていない。	
---	---	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に関催される事業所内での勉強会で議題として挙がり、身体拘束について学ぶ機会を設ける。今後は積極的に外部研修に参加し職員全体で周知できるよう努める。	身体拘束や類似の行為の排除を契約書に明記している。職員は利用者の癖や動作傾向を把握し、個々の見守りに努め安全を確保している。玄関と事務室には施錠しないが、各ユニット入口は施錠している。	どのような行為が身体拘束と云うのかを理解するための研修や勉強会を行い、職員に周知させる案件が検討されている。早急の実施されるよう希望します。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に関催される事業所内での勉強会で議題として挙がり、高齢者虐待防止法等を学ぶ。又、事業所内の言葉使いや虐待につながる可能性のある対応については個別で指導を行う。又、虐待についての標語を掲示し職員周知に努める。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後外部研修を利用し、学ぶ機会を作り職員に周知させていきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、時間を掛け丁寧に説明を行っている。一方的ではなく疑問や不明な点を確認しながら説明するよう配慮している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の御意見については、管理者、職員が1対1で気軽に訴えられるようこころがけている。御家族については、「さくらノート」（ご意見連絡帳）を活用しご意見収集に努めている。	利用者・家族との連絡に「さくらノート」は有効に活用されている。家族等はおおむね月に1度は来訪するので、面談の機会も設けている。家族会は開催していない。運営推進会議に家族代表1名が出席し意見や要望を述べている。	家族会については以前に計画し開催したことがありますが、現在は行われていません。今回の談話で、今後は開催する意向で検討されているとのこと。実現されるよう期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のフロア会議やカンファ時に管理者が出席し、職員の意見を聞く機会を設けている。又、「業務改善係り」を設けており職員の意見が反映できるよう努めている。	毎月行っているユニット毎の会議と、事業所全体のイベントに合わせて不定期に開く合同会議があるほか、随時に職員が意見や要望を言える雰囲気保持を重視している。今回の納涼祭の時は既成の料理ではなく、職員が調理した唐揚げを提供したいとの意見があり、実施し喜ばれた事例がる。会議等で出た改善提案は特定の「業務改善係り」が主になって実施し日常業務に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休は最大限考慮し、十分な休みを確保している。又、不定期ではあるが個々の面談を行っており意見が交換できる機会を設けている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人（介護保険施設）の作業療法士の訪問、指導を受け、職員の技術向上に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	社会福祉協議会が主催する代表者会議に参加し交流を図っている。又、管理者が他施設を訪問し意見交換を行う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者が入居前に必ず御本人様と会いお話を聞く機会を設ける。積極的にコミュニケーションを図り要望や不安な事をまずは聞き入れ関係作りに努める。ホーム見学も随時対応。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談については、十分な時間をとって現状の確認、不安な事、要望などを聞き取る。まずは、「聴く」ということを最重要としこころがけている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望の相談や施設見学は、随時対応させていただく。満床の場合には、他施設の空き状況の確認を行う。同法人（介護保険施設）の入居状況も確認し連携を図る。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が出来ることを存分に発揮する場面や関わりを持つ事を心がけている。その中で職員が教わる事が多くあり、理解し共感できるよう努めている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係性を考慮した上で積極的に関与して頂き、面会時には状況報告を行い現状を理解して頂く事を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>友好関係が途切れないよう、知人などの面会を歓迎している。又、手紙のやり取りについては、投函なども代行して行う。要望があれば電話連絡も行えるよう配慮している。</p>	<p>自分の家に帰りたいたいと言って落ち着かない方を一時的に連れ帰るなど、その時の個々の状況に応じた対応を心掛けている。電話や手紙による関係継続は殆んど無いのが現状であることもあり、利用者の馴染みの友人・知人の来訪時には歓迎し、関係維持の支援をしている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者様同士の関係性を考慮し座席を決めている。又、職員が入居者様の間に入り話題を提供しコミュニケーションが図れるよう心がけている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約が終了しても御家族の同意を得て面会に伺う事がある。在宅復帰された方については、ホーム行事にお誘いすることもある。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎月のカンファレンスでは、本人本位の御意向を把握するよう努めている。趣味の継続や外出についても出来る限り対応している。	利用者各人の入居前のおおよその生活歴を把握している。入居後は居室担当職員が日々の介助作業から利用者個々の意向を把握し、職員全員に周知させている。日常の心身状況や表情を観察し、可能と思える本人の意向は実施するよう努めている。本人が望む散歩、手芸、絵の製作などの支援をしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活環境などを本人、家族から聞き取り入居後の生活に活かせるようにしている。又、入居後も本人や家族との関わりの中からヒントを得られるよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い身体状況の変化に留意している。言動や表情にも注意し、異変を早期に発見できるよう努めている。又、状態変化が見られた時は記録に残し職員間で情報の共有に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や御家族の御意向を踏まえケアプランに反映している。日々接する中で、本人の思いや希望を把握できるよう努めている。	利用者個々に担当職員がいるが、ケア業務は全員で行っている。モニタリングとカンファレンスは毎月行われ、3か月及び6か月毎の計画見直しに繋げている。常勤の看護師と往診医師からの意見も取り入れられている。見直し時の計画書を家族等に説明し、了承を得ている。	

27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個々の記録や業務日誌を職員全体で共有し、日々の支援に対応している。又、気付いた事などはカンファで話し合い介護計画に繋げる。</p>		
----	--	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人のOTに訪問して頂き環境面や機能訓練の指導をして頂く。又、歯科衛生士は週1度訪問して頂き口腔ケアをして頂く。居宅療養管理指導で薬剤師の訪問を行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティアの受け入れを行っている。町内の保育園との交流を実施。高校生の現場実習の受け入れ、中学生の職場体験を実施。インフォーマルサービスの情報収集を心がけている。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と同法人医師の2通りで対応している。毎月1回、法人の医師が訪問している。	利用者全員が協力医療機関の医師による診療を受けられる。月1回は系列医院の医師が来て診察している。協力歯科医も毎月訪問し必要な治療を行う。緊急時には救急車を要請し搬送することがある。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と介護士とで毎日連携を図り相談・助言・対応を気軽に行えている。24時間支援体制の下、指示を仰げる体制が築けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関のソーシャルワーカーと連絡を行い、情報交換に努めている。入院時は定期的に病院へ伺い情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期に向けた対応は入居時に重要事項に則り説明している。事業所として出来る範囲を説明し、御本人、御家族に納得して頂いている。又、終末期の状況に応じて職員間で話し合いを行うよう努める。</p>	<p>常勤の看護師が心身状態を見守り、重度化に対応できる愛川北部病院と連携して対応する体制が出来ている。終末期や看取りの対応事例は無かったが、今後も利用者家族の要望があれば看取り対応を行う旨を表明している。職員への具体的な対応方法についての研修が必要と考えていたが、現在まで行っていなかった。</p>	<p>昨年度の外部評価でも期待項目に上げられた、職員が利用者の重度化や終末期の状況に適切に対応する方法についての研修や訓練は、まだ十分ではないと認識されています。今後もこの計画を継続し、早期に実施されるよう期待します。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>看護師を交え、定期的に開催される事業所内での会議で議題として挙がり学ぶ。自治体の普通救命講習にも参加。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防災訓練は年2回実施。実際に消防署に通報し避難誘導も行う。地域住民の参加もあり、地域防災協定を結んでいる。</p>	<p>災害時に対応できる訓練を実施している。町内会の人々の協力も受けられる体制にある。事業所独自の訓練に参加してもらっている。消火器やスプリンクラーの設置、IH型調理器の使用などで、防火に努めている。災害時用の備蓄品はある。今までに夜間時を想定した訓練を行ったことがなかった。</p>	<p>災害時に必要な物品の備蓄はされていますが、保管場所の特定や品名の明細、有効期限の確認などに不備が見られます。場所や品物を掲示し、職員に周知されるよう期待します。夜間時想定防災訓練は10月中にも消防署の協力を得て内容を検討し実施することです。全職員が体験できる体制で、実施することを期待します。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に対する言葉使いや挨拶については、十分注意を払うよう努めている。個人情報の取り扱いも同様。今後、接遇、マナーについての勉強会や外部研修の参加を検討中。	利用者の人格を重視して介護に当たるべく指針がある。多忙でも言葉づかいがぞんざいにならないよう、接遇には管理者が十分に注意し対処している。個人情報が記された書類等は、錠付きのキャビネットに保管し管理している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の関わりの中から本人の要望などを汲み取り引きだせるよう努めている。出来る限り本人の選択・決定に沿うよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決まっているが、都度変化する要望に対し出来る限り柔軟に対応できるよう心がけている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用して頂き、本人の希望に沿った髪型にして貰っている。又、買い物時には化粧品の購入なども行っている。衣類の選択も本人と確認している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に食事の嗜好調査を行っている。身体的に無理のない範囲でおやつ作りや下膳を行って頂いている。食事は御入居者様と職員と一緒に取っている。	食事の献立は管理栄養士が作成し、法人内の調理担当部で調理したものが冷凍されて毎食届けられる。事業所はそれを適度に温めて配膳する。職員は食事介助を行いながら検食し、団樂しながら和やかな雰囲気ですべられるよう配慮がみられた。事前に禁食品、塩分調整、刻みやとろ味食の希望などの事項を確認している。誕生会では独自におやつなどを作り提供している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分量を記録に残し、摂取量の少ない入居者様には、その方が好む食品を追加して摂取して頂く。又、同法人の管理栄養士との連携を行い助言を頂く。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力を考慮した上で声掛けや介助を行っている。定期的な訪問歯科による診察、口腔ケアを利用し指導も受けている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表をつけ、個々の排泄リズムに合わせ自尊心を傷つけないよう行っている。	トイレは各フロアに2箇所あり、共に車椅子で利用できる広さがある。清拭用の暖かい「おしぼり」を利用し清潔保持に努めている。排泄頻度に留意していてもパッドに排尿している例が多く、対処の仕方に注意している。おむつ使用だった方が事業所の生活で筋力が向上し、リハビリパンツ使用に改善した事例があった。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を利用し排泄リズムを職員が把握。適度な運動や水分摂取を心がけ、下剤に頼らないよう心がけているが、実際は下剤を使用する事もある。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	現状大まかな予定は決まっている。状況に応じて時間を変更したり曜日をずらすことは可能。入浴拒否の強い方は時間をずらすなど工夫している。	原則で週2回、中間浴槽と称される、一種の機械浴槽で入浴している。一人ごとに湯水を替え、洗浄する。入浴回数を多く希望する方も居る。気の合う方どうしで入浴日を同じにするなどの工夫で、入浴拒否が起きないように配慮している。浴室内は広く、シャワー設備が左右2箇所にあり、利用者の体調に合わせてイスや手すりを備え、使い分けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	本人のペースに合わせ昼寝、就寝 等を行っている。就寝時間の決 まりもなく自由に過ごされている。 定期的に寝具を交換し、温度調 整も配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	各個人の服用されている薬の一 覧表があり職員が把握するよう 努めている。内服後は内服一覧 表に捺印している。又、隔週の 薬剤師の訪問時には助言・指 導を受けている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	無理のない範囲で畑や草むしり を手伝って頂く。お酒を摂取さ れる方もおられる。外出（散歩） の機会も持つよう努めている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している	本人の気持ちや状態に応じ散歩 に出かけるよう心がけている。買 い物の希望にも柔軟に対応でき るよう努めている。	日常の散歩は自力歩行の方を中 心に散歩コースで行う。家族が 外出や外泊に協力してくれる。 所内の菜園で手入れの手伝いを する方も居る。年に1回、庭で 家族を交え運動会を開催してい る。6月に半原保育園を訪問し、 園児との交流があり、楽しん できた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している	基本的には「立替制」になっ ているが、買い物時は、お金を 手渡し見取りを行うこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りについては、職員が代行して投函している。又、電話も要望があれば貸し出す。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様と一緒に作成した貼り絵や行事の写真を飾っている。又、玄関にはお花を飾っている。	共有する空間は広くて明るい。バリアフリーが徹底している安全構造である。ソファが利用目的に則した場所に配置されており適正である。季節感をとり入れた飾りがあり、台所も対面式でお互いが近い位置で見られる。IH調理器の仕様で安全に配慮している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファはくつろげるよう配置し、会話を楽しめるスペースとして提供している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人、御家族と相談して使い慣れた家具や御家族の写真など持って来て頂けるよう働きかけている。御入居者様が色塗りしたカレンダーなども飾っている。	エアコン、換気扇、防災カーテン、照明は既設である。ベッドは個々に合わせたレンタル品である。利用者が持ち込む家具等は自由なので、思い思いに必要な物品で室内をしつらえている。採光も良く清潔感がある。部屋の入口の名札と共に、その方に必要な介助を示す「坦送」「護送」及び「独歩」の表示がある。	昨年度の自己評価で課題とした、利用者が使い慣れた家具や物品を自室に持ち込むよう家族に奨励し依頼した件は、現在、本人・家族に浸透し実現されています。今後も本人本位の工夫を進めることを期待します。
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下全域には手すりをつけ安全面に考慮している。各居室のネームプレートやトイレの標識もつけている。		

事業所名	グループホーム さくら
ユニット名	2Fフロアー

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中でその人らしく暮らし続ける事が出来るような理念を作成。職員が目につくようホーム入口に掲示し共有するよう努めている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム行事や自治会行事を利用し地域住民の方々との交流を深めている。又、ホーム内の菜園でとれた野菜をおすそ分けしている。毎朝ホーム前公道の清掃を実施中。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を利用し、グループホームでの入居者様の生活状況を説明している。今後は、キャラバンメイトを活用し、認知症の理解について取り組みたい。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者からの御意見、御提案については、職員間の会議にて報告。今後も要望や改善点については迅速に対応できるよう心がける。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話連絡が主ではあるが、月に1回程度は直接役場に伺い話し合う機会を持つことはできている。担当者からの助言もあり、更なるサービスの向上に取り組むよう努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的開催される事業所内での勉強会で議題として挙がり、身体拘束について学ぶ機会を設ける。今後は積極的に外部研修に参加し職員全体で周知できるよう努める。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見 overs されることのないよう注意を払い、防止に努めている	定期的開催される事業所内での勉強会で議題として挙がり、高齢者虐待防止法等を学ぶ。又、事業所内での言葉使いや虐待につながる可能性のある対応については個別で指導を行う。又、虐待についての標語を掲示し職員周知に努める。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後外部研修を利用し、学ぶ機会を作り職員に周知させていきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、時間を掛け丁寧に説明を行っている。一方的ではなく疑問や不明な点を確認しながら説明するよう配慮している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の御意見については、管理者、職員が1対1で気軽に訴えられるようこころがけている。御家族については、「さくらノート」(ご意見連絡帳)を活用しご意見収集に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のフロア会議やカンファ時に管理者が出席し、職員の意見を聞く機会を設けている。又、「業務改善係り」を設けており職員の意見が反映できるよう努めている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休は最大限考慮し、十分な休みを確保している。又、不定期ではあるが個々の面談を行っており意見が交換できる機会を設けている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人（介護保険施設）の作業療法士の訪問、指導を受け、職員の技術向上に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	社会福祉協議会が主催する代表者会議に参加し交流を図っている。又、管理者が他施設を訪問し意見交換を行う。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者が入居前に必ず御本人様と会いお話を聞く機会を設ける。積極的にコミュニケーションを図り要望や不安な事をまずは聞き入れ関係作りに努める。ホーム見学も随時対応。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談については、十分な時間をとって現状の確認、不安な事、要望などを聞き取る。まずは、「聴く」ということを最重要としこころがけている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望の相談や施設見学は、随時対応させていただく。満床の場合には、他施設の空き状況の確認を行う。同法人（介護保険施設）の入居状況も確認し連携を図る。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が出来ることを存分に発揮する場面や関わりを持つ事を心がけている。その中で職員が教わる事が多くあり、理解し共感できるよう努めている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係性を考慮した上で積極的に関与して頂き、面会時には状況報告を行い現状を理解して頂く事を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友好関係が途切れないよう、知人などの面会を歓迎している。又、手紙のやり取りについては、投函なども代行して行う。要望があれば電話連絡も行えるよう配慮している。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を考慮し座席を決めている。又、職員が入居者様の間に入り話題を提供しコミュニケーションが図れるよう心がけている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても御家族の同意を得て面会に伺う事がある。在宅復帰された方については、ホーム行事にお誘いすることもある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎月のカンファでは、本人本位の御意向を把握するよう努めている。趣味の継続や外出についても出来る限り対応している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活環境などを本人、家族から聞き取り入居後の生活に活かせるようにしている。又、入居後も本人や家族との関わりの中からヒントを得られるよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い身体状況の変化に留意している。言動や表情にも注意し、異変を早期に発見できるよう努めている。又、状態変化が見られた時は記録に残し職員間で情報の共有に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や御家族の御意向を踏まえケアプランに反映している。日々接する中で、本人の思いや希望を把握できるよう努めている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録や業務日誌を職員全体で共有し、日々の支援に対応している。又、気付いた事などはカンファで話し合い介護計画に繋げる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人のOTに訪問して頂き環境面や機能訓練の指導をして頂く。又、歯科衛生士は週1度訪問して頂き口腔ケアをして頂く。居宅療養管理指導で薬剤師の訪問を行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティアの受け入れを行っている。町内の保育園との交流を実施。高校生の現場実習の受け入れ、中学生の職場体験を実施。インフォーマルサービスの情報収集を心がけている。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と同法人医師の2通りで対応している。毎月1回法人の医師が訪問。		
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と介護士とで毎日連携を図り相談・助言・対応を気軽に行えている。24時間支援体制の下、指示を仰げる体制が築けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関のソーシャルワーカーと連絡を行い、情報交換に努めている。入院時は定期的に病院へ伺い情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援            重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期に向けた対応は入居時に重要事項に則り説明している。事業所として出来る範囲を説明し、御本人、御家族に納得して頂いている。又、終末期の状況に応じて職員間で話し合いを行うよう努める。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え            利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>看護師を交え、定期的に開催される事業所内での会議で議題として拳がり学ぶ。自治体の普通救命講習にも参加。</p>		
35	13	<p>災害対策            火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防災訓練は年2回実施。実際に消防署に通報し避難誘導も行う。地域住民の参加もあり、地域防災協定を結んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に対する言葉使いや挨拶については、十分注意を払うよう努めている。個人情報の取り扱いも同様。今後、接遇、マナーについての勉強会や外部研修の参加を検討中。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の関わりの中から本人の要望などを汲み取り引きだせるよう努めている。出来る限り本人の選択・決定に沿うよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決まっているが、都度変化する要望に対し出来る限り柔軟に対応できるよう心がけている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用して頂き、本人の希望に沿った髪型にして貰っている。又、買い物時には化粧品の購入なども行っている。衣類の選択も本人と確認している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に食事の嗜好調査を行っている。身体的に無理のない範囲でおやつ作りや下膳を行って頂いている。食事は御入居者様と職員と一緒に取っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援            食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事水分量を記録に残し、摂取量の少ない入居者様には、その方が好む食品を追加して摂取して頂く。又、同法人の管理栄養士との連携を行い助言を頂く。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持            口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>個々の能力を考慮した上で声掛けや介助を行っている。定期的な訪問歯科による診察、口腔ケアを利用し指導も受けている。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援            排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄表をつけ、個々の排泄リズムに合わせ自尊心を傷つけないよう行っている。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応            便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排泄表を利用し排泄リズムを職員が把握。適度な運動や水分摂取を心がけ、下剤に頼らないよう心がけているが、実際は下剤を使用する事もある。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援            一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>現状大まかな予定は決まっている。状況に応じて時間を変更したり曜日をずらすことは可能。入浴拒否の強い方は時間をずらすなど工夫している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースに合わせ昼寝、就寝等を行っている。就寝時間の決まりもなく自由に過ごされている。定期的に寝具を交換し、温度調整も配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の服用されている薬の一覧表があり職員が把握するよう努めている。内服後は内服一覧表に捺印している。又、隔週の薬剤師の訪問時には助言・指導を受けている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理のない範囲で畑や草むしりを手伝って頂く。お酒を摂取される方もおられる。外出（散歩）の機会も持てるよう努めている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の気持ちや状態に応じ散歩に出かけるよう心がけている。買い物の希望にも柔軟に対応できるよう努めている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には「立替制」になっているが、買い物時は、お金を手渡し見守りを行うこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りについては、職員が代行して投函している。又、電話も要望があれば貸し出す。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様と一緒に作成した貼り絵や行事の写真を飾っている。又、玄関にはお花を飾っている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファはくつろげるよう配置し、会話を楽しめるスペースとして提供している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人、御家族と相談して使い慣れた家具や御家族の写真など持って来て頂けるよう働きかけている。御入居者様が色塗りしたカレンダーなども飾っている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下全域には手すりをつけ安全面に考慮している。各居室のネームプレートやトイレの標識もつけている。		



目標達成計画

事業所名 グループホームさくら

作成日 26年 3月 20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	8	権利擁護や成年後見人について学ぶ機会が持てていない。	権利擁護、成年後見人の理解	内、外部研修を利用し、両項目について理解を深める。	6ヶ月
2	33	重度化や終末期に向けた取り組みの強化。	重度化、終末期に対する適切な対応方法の理解	協力医療病院との連携強化。又、職員の必要な研修の実施。	8ヶ月
3	35	災害に備えるアイテムの選別と保管場所の整理があまく、職員の意識も薄い。	保管場所を整理し、全職員に周知徹底を図る。	同法人老健さくらとの連携を図り、賞味期限の定期的な確認と備蓄品の選別を実施する。	6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。